

# 明石市江井島周辺を中心とした藻場造成「アマモは海のゆりかごだ！」プロジェクト

## ■プロジェクトの概要

1980年代終わりに養浜された兵庫県明石市の江井島海岸と谷八木地先のアマモ場を中心に、CO<sub>2</sub>吸収源の回復や拡大を目指した活動をしています。

### 【谷八木地先】

- ✓ 2001年に自生アマモ場に隣接した被度0区域で播種シートによるアマモ場造成(25m<sup>2</sup>)を実施
- ✓ 3年後のアマモは、隣接する自生地と遜色のない129本/m<sup>2</sup>まで成長、規模拡大
- ✓ 造成から10年以上も安定したアマモ場が維持されたことを確認
- ✓ その後も漁業の傍らアマモの生育状況、漁獲高による生息生物の調査を継続

### 【江井島海岸】

- ✓ 2011年より自生のアマモで種子を採取、養生、保存、移植、播種を実施
- ✓ 毎年アマモの繁茂状況や生息生物のモニタリングを実施（地引網による生物調査時に食害生物を駆除）
- ✓ SDGs取組「子供達を中心とした海のゆりかご教室」を実施（地引網による生物調査時に食害生物を駆除）

### 【魚住地先】

- ✓ 2022年にアマモ場造成を実施（播種シート4m<sup>2</sup>×5枚、計20m<sup>2</sup>）
- ✓ 2023年6月調査で約40本/m<sup>2</sup>の生育を確認

※上記3区域で毎年アマモの播種を実施。

アマモ場のCO<sub>2</sub>吸収量把握のための調査の高度化にも努めています。



敷設直後の播種シート



3年後の造成アマモ場

## ■プロジェクトの特徴・PRポイント

海域環境の保全や水産資源の回復を目指して、漁業協同組合と民間企業、NPO法人の3者が連携しつつも、それぞれが出来ることを主体的に実施しています。今後も3者の連携を強く保ち、地引網によるアマモ場の生物調査時に食害生物の駆除に努めるほか、3海岸地先でのアマモの播種活動を継続して、CO<sub>2</sub>吸収源としてのブルーカーボン生態系の回復や拡大を図ります。

### ■プロジェクト実施者

江井ヶ島漁業協同組合  
東洋建設株式会社大阪本店  
特定非営利活動法人アマモ種子バンク



アマモ種子の採取



地引網による生物調査



海のゆりかご教室